

授業等アドバイスシート

【小学校共通①】

◇めあてと振り返りを意識して学習を進めましょう。

＜稲沢市（学力定着実践研究推進地区）の実践より＞

1 学びのスタンダードの確立

児童の更なる学力向上やよりよい学習習慣の確立を目指して、校区の小・中学校が連携して以下の4点に取り組んでいます。

- 学習規律（授業の準備、チャイム席、あいさつ、返事、姿勢）の指導の徹底
- 前面黑板や黑板の周辺をすっきりさせ、集中できる学習環境づくり
- 聞き方や話し方の指導の徹底【資料1】
- 本時のめあてとまとめを明確に提示【資料2】

(1) 聞き方や話し方の指導の徹底

「聞き方」のあいうえお		「話し方」のかきくけこ	
あ	あいてを見て	か	かおを見ながら
い	いい姿勢で	き	きもちをこめて
う	うなずきながら	く	くちを開いて
え	えがおで	け	けいごを使って
お	おわりまで	こ	こえを大きく

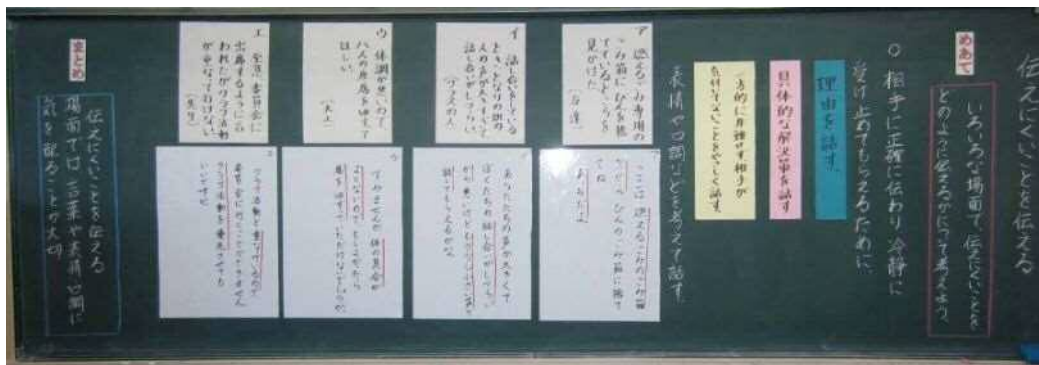
掲示するだけでなく、活用することがポイント！

スキルを身に付けさせるためには、意図的・継続的な指導が必要です。「このスキルを、この場面で指導して、身に付けさせよう」と、日々の授業の中に具体的に位置づけることが大切となります。

【資料1】聞き方・話し方指導の例

(2) 本時のめあてとまとめを明確に提示

「めあてカード」「まとめカード」を黑板に貼り、児童に分かりやすく伝えます。めあてとまとめを意識することで、授業のゴールまでを見通して、授業づくりを行うことができます。



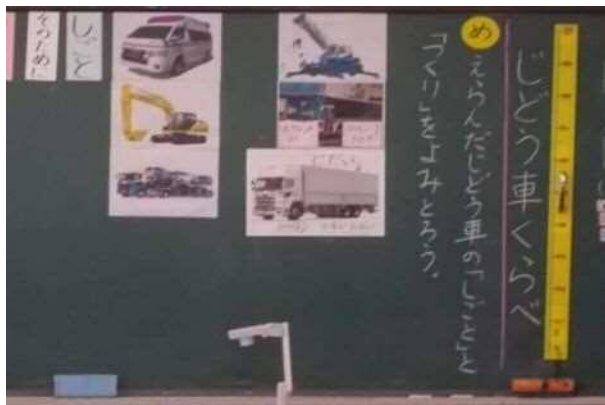
【資料2】板書の例

2 分かる授業づくりに向けての工夫

(1) 児童の興味・関心を高める導入の工夫

学力を向上させるためには、授業の導入段階で児童が「あれ？何でだろう」、「やってみたい」「考えてみたい」と感じる課題を提示する必要があります。導入の5分の教材提示や活動を工夫し、全員参加の授業づくりを目指します。(以下具体例)

○ 具体物(実物・写真・映像)の提示



このような活動を効果的に組み合わせることで、児童はより集中して学習に取り組めます。

- 資料(グラフなど)の提示
- インパクトのある実験の提示
- 活動から導入(音読など)
- 前時の学習の掲示物を活用
- フラッシュ教材 など

- ① 選択肢から選ぶ
- ② 複数のものを比べる
- ③ 隠されたものを見つける
- ④ 正しい順序に並べる
- ⑤ 間違いを正す

(2) 児童に「出力」させる場の設定

学力を向上させるためには、授業の中で児童に分かりやすく「入力」させることを大切にするとともに、「出力」させる場を設定し、全員が生き生きと活動できるように工夫する必要があります。以下の四つのパターンの「出力」に取り組んでいます。

- ① 学んだことを声に出して知識を定着させる。(話す・書く)
音声計算トレーニングや重要語句の暗記をする。
導入の場面で前時に学んだことを30秒で話す。
- ② 本時の課題についての考えをつくる。(書く)
課題についての自分の考えをノートに書き出し、まとめる。
- ③ 本時の課題についての考えを広げ、深める。(話す・話し合う・書く)
ペア・グループ・全体などで伝え合い、考えを広げ、深める。
- ④ 振り返りの場面で本時の学びをまとめる。(書く)
視点をもとに振り返りを書く。
次時の学習や家庭学習につなげる。

○ 入力型の活動・・・「聞く」「見る」「読む」「覚える」など

○ 出力型の活動・・・「書く」「話す」「話し合う」など

3 地域の学校間の連携強化

校区の小・中学校の教員が互いの授業を参観し、9年間を見通した指導に役立てます。授業参観をする際には、チェックリストを活用し、事後の授業検討会が有意義なものとなるように努めています。【資料3】

「学力向上をめざす授業づくり」チェックリスト 【資料3】

《研究の柱立て》 学びのスタンダードの確立... ① 分かる授業に向けての指導の工夫... ②
出力させる場づくりの工夫... ② 指導に生きる評価の工夫... ②

	ポイント	チェック内容	大変よい	改善必要	メモ
1	学習規律	① 学習規律（チャイム席、授業の準備、あいさつ、返事、姿勢）が守られていましたか。	4・3・2・1		
2	学習環境	① 前面黒板や黒板周りはすっきりとしており、集中して学習できる環境がつけられていましたか。	4・3・2・1		
3	聞き方・話し方	① 話す人を見て発表を聞くことや、丁寧な言葉ではっきりと話すことはできていましたか。	4・3・2・1		
4	めあてとまとめ	① 学習課題（めあて）やまとめは適切であり、子どもに分かりやすく示されてきましたか。	4・3・2・1		
5	授業の導入	② 教材提示や活動を工夫し、授業の導入で全員をひきつけることができましたか。	4・3・2・1		
6	教材・教具	② 具体物やICT、掲示物などを効果的に使って、分かりやすく授業を行っていましたか。	4・3・2・1		
7	板書	② 子どもの考えを取り入れた構造的で分かりやすい板書づくりがされてきましたか。	4・3・2・1		
8	学習形態	② 学習形態の工夫を通して、全員を授業に参加させ、一人一人の理解を深めることができましたか。	4・3・2・1		
9	出力への準備	② 全員が学習課題に対する考えをもてるように工夫されてきましたか。（発問、ワークシート等）	4・3・2・1		
10	出力への意欲化	② 自分の考えを進んで発表することかできるように工夫されてきましたか。	4・3・2・1		
11	出力による深化	② 対話などを通して、考えを広げたり深めたりする場を設定することができましたか。	4・3・2・1		
12	出力による定着	② 全員が考えを出力し、学んだことを定着させる場が設定されてきましたか。	4・3・2・1		
13	評価基準の提示	② 評価基準の提示を工夫し、子どもの意欲を効果的に高めることができていましたか。	4・3・2・1		
14	机間指導個別支援	② 明確な意図をもって、効果的に机間指導を行い、指導・支援に生かすことができましたか。	4・3・2・1		
15	振り返り	② 学んだことが実感できるような、授業の振り返りの時間は確保されてきましたか。	4・3・2・1		

授業等アドバイスシート

【小学校共通②】

◇アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善をしましょう。

＜常滑市（アクティブ・ラーニング実践研究推進地区）の実践より＞

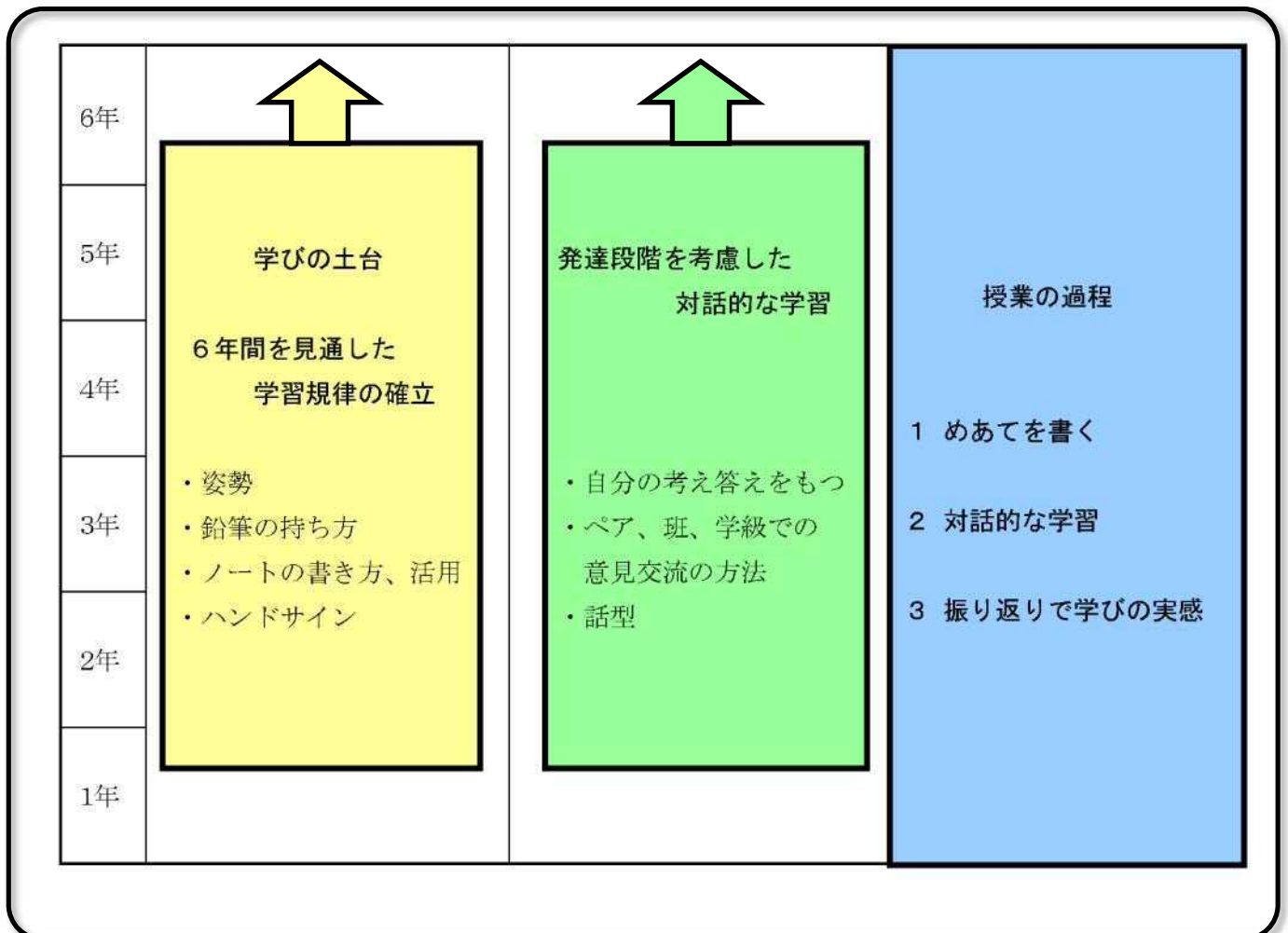
「主体的・対話的で深い学び」をテーマにした授業を検証する中で、「活動は活発だが、学びが定着しているのか」「ペア活動や話し合いを通して学びを深めるには、低学年からの系統的な指導が必要ではないか」などの課題が見えてきました。

○「学びの土台を基にした対話的な学習」の要旨

○めあて、話し合い、振り返り等、今までの取組を再考し、積み重ねる授業改善。

○「自分の考えや意見の根拠を伝え合う」、「相手の考えや意見を取り入れて改善する」、「自分の言葉で説明する」などの対話的な学習で、学びの定着や次の主体的な活動につなげる。

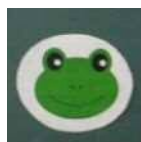
○「学びの土台を基にした対話的な学習」のイメージ



授業の過程「めあて」

1 めあてを書く

- ・教師は「板書」「マーク」「カード」などを使って
児童は「ノート」「ワークシート」に記入して、明確に。



【板書用めあて、ふりかえり、まとめマークで明確に】

○既習内容や前時間の内容をもとに

めあて

「くり上がる筆算の計算をしよう」

学習課題

「 24×3 を筆算で計算しよう」

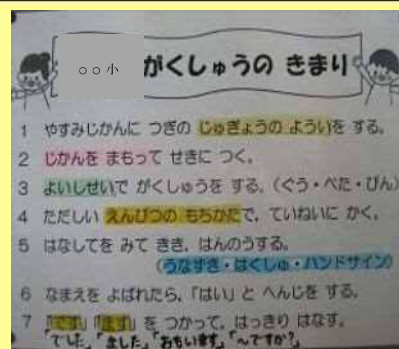
「(既習内容を活用して)何を求めれば(考えれば)よいですか?(答えがでますか)」

○意欲を高めるための設定・仕掛け・声かけ

- ・「快盗えんぴつ君」から届いた問題(謎)という設定
- ・「たくさん的に当てたい人!」と尋ねて「的にたくさん当てよう」と意欲向上
- ・「全員で、めあて(課題)を言いましょう」と、めあてや課題の復唱で確認

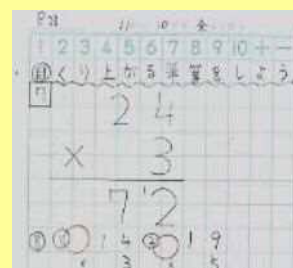
・学びの土台 6年間を見通した学習規律の確立

- 休み時間に次の授業準備をさせる指導
- 時間を意識させた着席指導
- 姿勢指導
- 鉛筆の持ち方指導
- 聞き方、反応指導(うなずき・拍手・ハンドサイン)
- 返事指導
- 話し方指導(「です」「ます」)



・学びの土台 6年間を見通したノートの書き方、活用の指導

- 教科書ページ・日付などを書かせる
(P23 11がつ 10にち 金ようび)
- めあてを書かせる
(くり上がる筆算をしよう)
- 学習課題を書かせる
(24×3)



授業の過程「意見交流」

2 対話的な学習

・学習課題に対して、「自分の考えや答え」をもち、意見交流をする。

- 自分の言葉で記入（ノート、ワークシート）
- 考えや答えの根拠を表現 「○○だから、○○と考えました。」

・意見交流の方法例。

- ペア交流
 - ・隣席交流
 - ・意図的な隣席編成（個々の特性、学力などを考慮）
 - 【ペアで意見を伝え合う】 →
- 立ち歩き交流
 - ・席を立てて不特定多数と交流
 - ・自分の考えを書いたノート、ワークシートを持つ
 - 【考えや答えを伝たり、聞いたりして深める】 →
- グループ交流
 - ・役割（司会、発表者、板書記入者など）
 - ・意図的なグループ編成（個々の特性、学力を考慮）
 - ・机の合わせ方（4人くらいが望ましい）
 - 【ワークシートの図を活用して考えを説明する】 →
- 全体交流
 - ・個人として、グループの代表として、全体に考えや答えを伝える
 - 【板書を活用して自分の言葉で全体に説明する】 →



交流後の児童の姿

「自分の考えや答えに確信をもつ」 「自分の考えや答えが変容する」

- 根拠を自分の言葉で相手に伝えている。○根拠を図や絵を示しながら伝えている。
- 前後左右の児童からヒントを得て考えや答えを確信したり、変容したりしている。

※ 一人で考える場面、ペアで伝え合う場面、グループで伝え合う場面を
タイマー、ピクチャーカードなどで学びの切り替えを促す。

※ 「言いつ放し」、「メモするだけ」、「できる子が一方的に教えている」
にしない。

・発達段階に応じた、伝え合う話型の指導。（「○○だから、○○と考えました」）

- 考えや答えの根拠を表現する
- 低学年の話型から高学年の自分の言葉へ
- 最初は、単に答え（単語）を言い合う指導から、段階的に伝え合う指導を行う

授業の過程「振り返り」

3 振り返りで学びの実感

・自分の言葉でまとめる。発表する。

- 自分の言葉でまとめる、伝える（ノート、ワークシート）
- 授業で分かったこと、できるようになったこと

「○○だから、○○と考えました」

・交流での答えや考えの確信や変容を含めて、根拠を表現する（図や絵を活用）

学習課題に対応

「 24×3 の筆算のやり方、手順、答え」

「くり上がった数をわすれないように計算する」

教師の声掛け、支援

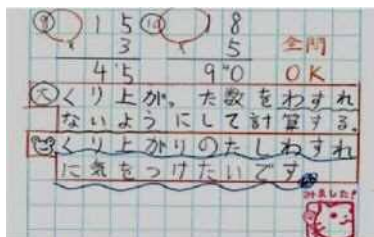
- ・「どうやったから、できるようになったのかな」
- ・「友達に何て伝えたのかな」
- ・「これは何の役に立ちそうかな」
- ・「○○ではなく、○○するといいいよ」と教科書やワークシートの登場人物にむけてアドバイスさせる

・自分の言葉で振り返る。発表する。

- 自分の言葉で振り返る（ノート、ワークシート）
- 次時にやってみたいこと、調べたいこと
- 工夫したこと、努力したこと
- 「○○の言葉を使って書く」

めあてに対応

「くり上がりのたしむすれに気をつけたいです」



「今日の学習から、○○ということが分かった。（できた）つぎは（これからは）○○を生かして学習したい。（次時の目標・学習内容）」

＜西尾市（アクティブ・ラーニング実践研究推進地区）の実践より＞

1 アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくり

「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、子供同士が対話する必然性を生み出す学習課題の設定が必要です。そこで、子供同士の考えのズレや迷いが生まれ、交流する必然性が発生する「判断をうながす学習課題」を取り入れることにしました。

また、こうした話し合い活動で得た「知識・理解」や「技能」を活用・適用・応用することで、学力として身につけることができると考えます。1時間を話し合いだけで終わるのでなく、得た知識・思考・判断力を活用する学習活動を後半に設定した授業展開を実践しました。

＜アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業モデル＞

導入…学習課題までの助走

- ↓ ・考えのズレや迷いの確認
- ↓ ・問題場面の把握

学習課題の提示 ※判断をうながす学習課題

- ↓ 「AかB、どちらだろう」

展開1…「問題解決型学習」

- ↓ ・AかBどちらの立場に立つかを決める ※意志の決定
 - ↓ ・この根拠と理由を考える ※自力解決
 - ↓ ・黒板にネームプレートを貼る ※自己決定の可視化
 - ↓ ・意見交流する ※話し合い
- 「そうか、分かった」 ※学習課題の解決

展開2…「適用・応用型学習」

- ↓ ・「では、次の問題はどうか考えたらいいのだろう」 ※応用問題を解く
- ↓ ・問題を考える
- ↓ ・解答を確かめる

まとめ…学習したことの確認

- ・「はじめは～と思っていたけど、○○くんの考えを聞いて、～と思った」
- ・「今日の勉強で、～ということが分かった」 ※文字化・言語化



それぞれの学習活動では、どの子にも分かりやすく、理解しやすいように「ユニバーサルデザインの手だて」である「視覚化」「共有化」「スモールステップ」などの手立てを用いて支援します。

≪ 話す・聴く力を高めるためのトークタイム ≫

トークタイムでは、授業で主体的に話し合うための土台を作り、話し合う力を鍛えます。「フリートーク」「アドジャン」（じゃんけんによるコミュニケーションのエクササイズ）「質問じゃんけん」に取り組むことで、話し方や聴き方の基礎基本を身につけ、対人関係づくりをします。

「フリートーク」では、主に話し方や聴き方を身につけることを目的とします。考えを発表するときは、「私は〇〇です。理由は～だからです」という話形を用い、発表の練習をします。聴いている方は、「うなずきながら聴く」ことを意識して、友達の発表を聴きます。

<p>＜フリートークの流れ【対立型】＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒板にネームプレートをはって、自分の考えを明らかにする ※ 自己決定の可視化 2. 全体で意見交流をする 3. 友達の意見を聞いて考えが変わったら、ネームプレートをはりかえる 4. 意見が変わった理由を発表する 5. 司会が感想を発表する 	<p>＜フリートーク話題例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 情報提供型... 「好きな食べ物は？」 ② 悩み型... 「足が速くなるコツは？」 ③ 想像型... 「もしも動物と話せるとしたらどうする？」 ④ 対立型... 「運動会をするなら、春と秋、どちらがよい？」
--	---

「アドジャン」と「質問じゃんけん」では、主に他者理解を促し、人間関係づくりを目的としています。子供たちは楽しいゲームをしている感覚で、友達のことを知ることや自分のことについても知ることができます。子供たちが取り組んでいる間、教師はコーディネータとして、机間指導をしながらめあてを意識させたり、子どもの良い姿をとらえて褒め、全体に広げたりすることが重要です。

≪ 書く力を高めるためのかきかきタイム ≫

かきかきタイムでは、「えんぴつを正しく持つ」「文字をていねいに書く」「正しく視写する」力の習得を目指して取り組んでいます。えんぴつを正しく持つことができると、余分な力を入れずに文字を書くことができます。また、視写する力をつけることは、板書を写すときなどに正しく、語句のまとまりを意識して書くことができるようになりますので、内容理解につながると考えられます。視写のめあても、中学年は語句ごとに書く、高学年では文節ごとに書くとして、発達段階に応じて設定しています。えんぴつを正しく持つための補助具として、なかよしリングを使用しています。良い姿勢の写真やめあてを、黒板に掲示して意識させます。

＜かきかきタイムのめあて＞

- ・えんぴつを正しく持つ。
- ・よい姿勢で書く。
- ・ていねいな字で正しく書く。
(はね・とめ・はらいに気をつけ、誤字脱字がないように書く)
- ・語句、文節ごとに視写する力をつける。



2 学び合う仲間を支える学級づくり

学級が子供たちにとって安心して生活できる場であること、学級の課題を子供たち自身が発見し、改善・解決に向けて主体的・協働的に動いていけることは、自ら考え、ともに学び、高め合う子供の育成につながります。

≪ 学級力向上プロジェクト ≫

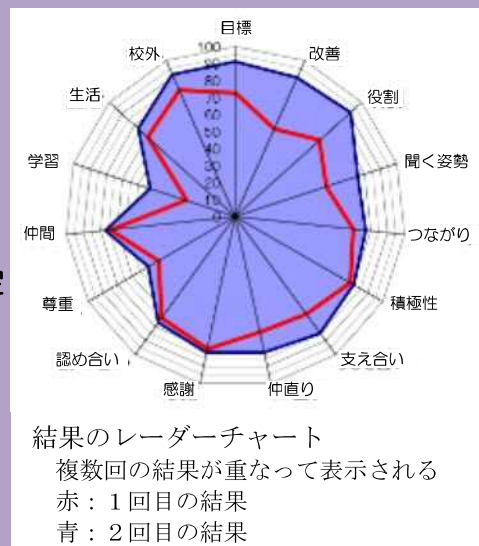
学級力向上プロジェクトは、子供たちを学び合い・教え合う集団に高めていくために、学級力アンケート（学級力に含まれる力をもとに作成）の結果をもとに子供自身が学級の様子を自己診断・自己評価して、解決策やより良くしていく方法を考えて実行していく活動です。子供自身で考えた取組を実行していくことで、子供が学級経営に参画できる良さがあります。

○学級力に含まれる力 ※ 小学校高学年

- ・目標をやり遂げる力（目標、改善、役割）
- ・話をつなげる力（聞く姿勢、つながり、積極性）
- ・友達を支える力（支え合い、仲直り、感謝）
- ・安心を生み出す力（認め合い、尊重、仲間）
- ・きまりを守る力（学習、生活、校外）

学級力向上への活動サイクル

- ① 学級力アンケートの実施、集計
- ② アンケート結果のレーダーチャートを用い、子供たちに結果の診断をさせ、課題（成果）を明確化
※ 視覚化、数値化されることで目標をもちやすく変化も把握しやすい
- ③ 課題を改善するための個人及び学級での取組の決定
※ 取組は「伸ばしたい力」と「改善したい力」で2～3つ程度に絞ると良い
- ④ 取組の実施。
※ 随時実施状況の記録と振り返りを行う
- ⑤ 学級力アンケートの再実施



★1学期に1～2サイクルを目安に②～⑤を繰り返し実施していきます



学級力とは、「学び合う仲間として学級をよりよくするために、子供たちが常に支え合って目標にチャレンジし、友達と豊かな対話を創造して規律を守り、安心できる環境のもとで協調的な関係を創り出そうとする力」です。

3 授業に向かう気力・体力づくり

正しい姿勢を保つことができない、丁寧に字を書くことができないなどの不器用さの改善を図り、授業に向かう気力、体力を養うために「体力向上プロジェクト」を策定しました。

◀ 体力向上プロジェクト ▶

朝の会では、全校で3分間の瞑想タイムを行います。姿勢を正しく保つことで体幹を鍛え、目をつむって心を落ち着かせることで授業に向かう気力を養います。また、休み時間、給食、掃除など日々の生活の中でも体づくりを意識します。帰りの会では、ハイタッチをしてから下校します。空間認知能力を鍛えるだけでなく、心をほぐすことにもつながります。

体力向上プロジェクト

時間帯	低	中	高	実	内容
朝の会	◎	◎	◎	◎	瞑想タイム（マインドフルネスタイム）
休み時間	◎	◎	◎	◎	外遊びの推奨 毎月第2・4水曜日は掃除の時間をカットし、外遊びの時間を設ける
	○	○	○	○	集団遊びの推奨
	◎	◎	◎	△	短縄跳び 低学年：約回し跳び100回 中学年：後ろ回し跳び50回 高学年：後ろ回し跳び100回
	○	○	○	○	短縄強化月間（短縄チャレンジカード）（1月～3月）
	○	○	○	○	長縄週間（1月、2月）
給食	◎	◎	◎	◎	鉄棒強化月間（鉄棒チャレンジカード）（6月）
	◎	◎	◎	◎	食事マナー
	◎	◎	◎	◎	よくかんで食べる
掃除	◎	◎	◎	◎	雑さずに食べる
	△	◎	◎	◎	雑巾がけの指導（まっすぐ進む、膝をつかない、顔を上げる）
帰りの会	◎	◎	◎	△	机、椅子を持ち上げて運ぶ（2人で運ぶのも可とする）
場の設定	○	○	○	○	痛る前に両手でハイタッチ ・マット運動（前転、後転） ・スキップ、ラダー ・バチバチ・ボールキャッチ ・字押し ・ドッジボール、ドッジビー

◎は継続的に、○は定期的に、△は実態に応じて実施するものを表しています

◀ 実践例 ▶

鉄棒は、体を支える力や体の軸を安定させる力、腕の力をつけることができます。これらの力が身につくことは、正しい姿勢を保つことにつながります。6月を鉄棒強化月間とし、低・中・高学年ごとに目標を設定した鉄棒チャレンジカードを作成し、授業や休み時間に取り組みました。

短縄跳びは、基礎的な体力を養うことと、体をスムーズに動かすことを目的として行います。学年に応じた目標を設定し、体育の授業の導入などで年間を通して取り組みます。

授業等アドバイスシート

【小学校共通③】

◆学校と家庭の連携を意識した取組をしましょう。

<知立市（学力定着実践研究推進地区）の実践より>

知立市では、児童生徒の学力向上のために、学校と家庭の連携と家庭学習に関する意識の向上が不可欠と考え、家庭学習で取り組むべき内容について、具体的に記述するようにしました。

家庭学習のススメ

表紙には、児童・生徒・保護者へのアドバイスやヒントを、裏面には、家庭学習を実施するに当たってのチェックシートを記載し、児童・生徒・保護者がそれぞれ自分自身を見つめ直すことができるようにしました。

家庭学習をがんばると・・・

- ① 毎日復習することで、授業で学んだことがしっかり身につきます。
- ② 予習をしておくことで、授業が分かりやすくなり、発言が増えます。
- ③ 「できた」「分かった」という達成感が感じられるようになり、学校が楽しくなります。
- ④ 積極的にいろいろなことにチャレンジする姿勢が育ちます。

家庭でできることは・・・

- ① 学習環境をつくること
・学習する時間をつくりましょう。
・整理整頓をしましょう。
- ② 学習できる体をつくること
・早寝早起きを心がけましょう。
・食事（特に朝食）に気を配りましょう。
- ③ やる気を引き出すこと
・元気にあいさつ、そして、楽しい会話を増やしましょう。
・認め、褒め、励ますことを心がけましょう。

小学生の学習時間の目安
学年×10分+10分

ごはん、パンなどは頭のスイッチを入れます。サラダなどは腸を元気に目覚めさせます。



朝食をきちんと食べて、よい1日のスタートを！

1・2年生 まいにちじかんをきめてべんきょうしよう！

- ・まいにち、こえにだしてきょうかしょをよもう。
- ・まいにち、もじをかくれんしゅうをしよう。
- ・たしざん、ひきざんがしっかりできるように、なんどもれんしゅうをしよう。
- ・2年生は、九九がしっかりいえるように、なんどもれんしゅうをしよう。
- ・本をたくさんよもう。

1年生 20分
2年生 30分

おうちの方へ



習慣づけの1年生 自分から取り組む2年生

この時期の子供は、何でも知りたい、できるようになりたいという気持ちでいっぱいです。褒めて、認めることで子供はさらにやる気になります。

ただ、自ら進んで家庭学習に取り組むことはまだまだ難しいです。低学年の間は、できるだけ一緒に取り組むようにしましょう。そうすることで、家庭学習の習慣が付き、だんだんと進んで取り組めるようになります。

3・4年生 学校で習ったことを復習しよう！

3年生 40分
4年生 50分

- ・毎日教科書を読んで、すらすら読めるようにしよう。
- ・漢字の読み書きがしっかりできるよう、毎日練習をしよう。
- ・わり算・かけ算の筆算や小数・分数の計算がしっかりできるよう、何度も練習をしよう。
- ・問題集やテストでまちがえたところを、もう一度やってみよう。
- ・本をたくさん読もう。
- ・ことわざ・故事成語・慣用句をたくさん知ろう。
- ・きょう味のある新聞記事を読もう。

おうちの方へ



分岐点に立つ3年生 「9歳の壁」を乗り越える4年生

9歳前後の子供たちはさまざまな転換期を迎えます。幼少期には自分中心の世界にいた子供たちが、そこから抜け出し、他者との関わりやその存在を意識し始めるのがこの時期だと言われています。

学習に対して苦手意識をもつ子が、低学年のときに比べ増えてきます。ここで根気強く声をかけ励ますことで、家庭で学習する習慣がしっかり身についてきます。学校での様子を話題にするとともに、宿題や持ち物を時々点検するなどして、お子さんの学習への取り組みを応援しましょう。

5・6年生 粘り強く分かるまで勉強しよう！

5年生 60分
6年生 70分

- ・毎日教科書を読んで、内容を理解しよう。
- ・漢字の意味を調べたり、読み書きがしっかりできたりするよう、何度も練習しよう。
- ・計算や文章の問題など、苦手なところもしっかりできるように、何度も復習しよう。
- ・練習問題やテストでまちがえたところを、できるまでやって確実に覚えよう。
- ・さまざまなジャンルの読書をしよう。(随筆・伝記・ノンフィクションなど)
- ・興味のある記事(新聞・雑誌・インターネット)をスクラップしたり、感想を書いたりしよう。

おうちの方へ



大きく伸びる5年生 中学校生活に希望がもてる6年生

この時期の子供は、少しずつ自我が目覚め、周囲に対して自分の考えを主張するようになってきます。心の成長や深まりが見え始めるこの時期だからこそ、以下のように温かく見守り、励ましましょう。

- ・お子さんの思いや考えを真剣に受けとめましょう。
- ・他の子との比較ではなく、お子さんなりのがんばりを認めましょう。
- ・「やればできる」と、ねばり強く励ましましょう。

【中学生に向けて】

中学生の家庭学習時間の目安を学年×1時間+1時間と設定しました。そのためにも、小学生のうちから段階を経ながら少しずつ家庭学習に取り組む意識を高めていくことが必要です。また、「論理的な思考力・想像力」を身につけさせるためには、中学生では、新聞のコラムを要約したり、社説を読んで感想を書いたりすることを家庭学習に取り入れていく必要があると考えます。そのためにも小学生のうちから、さまざまなジャンルの本を読んだり、興味のある記事に対する感想を書いたりすることに積極的に取り組ませることが大切であると考えます。

授業アドバイスシート

【小学校国語①】

◇ 日常で活用する力をつけられる漢字学習の取組を工夫しましょう。

実態

- 漢字の読み書きにおいて全国の正答率と差が見られます。
(例：「参加たいしょう」-5.9ポイント、「おいてある」-3.3ポイント)

対策

- ① 学習した漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習することのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導しましょう。

これまでの小学校調査における漢字の読み書きの愛知県の正答率

平成 21 年度		平成 22 年度		平成 24 年度		平成 25 年度	
・混雑する	92.8%	・慣れる	95.1%	・建築する	86.3%	・券	98.4%
・移る	90.6%	・目次	94.2%	・独立	90.1%	・子孫	79.0%
・採集する	75.5%	・清潔	95.2%	・許す	94.3%	・採集する	62.7%
・びょういん	72.5%	・ひさしぶり	77.2%	・いしゃ	79.8%	・やく	71.5%
・さんせい	79.9%	・ぎじゅつ	68.5%	・たいよう	83.3%	・ていしゃ	41.7%
・はこぶ	76.3%	・へんか	88.3%	・ぬの	89.8%	・もうける	49.6%
愛知 81.3%		愛知 86.4%		愛知 87.3%		愛知 67.2%	
全国 83.6%		全国 89.0%		全国 88.8%		全国 69.0%	
差 -2.3ポイント		差 -2.6ポイント		差 -1.5ポイント		差 -1.8ポイント	
平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
・標識	90.1%	・招く	90.1%	・快晴だ	75.3%	・参加たいしょう	36.1%
・街灯	86.2%	・信念	86.2%	・貯金する	97.5%	・きぼう者	80.6%
・勢い	71.6%	・承知した	71.6%	・省く	78.7%	・期限	93.3%
・さら	97.8%	・あびる	97.8%	・たねをまく	84.3%	・事務室	86.5%
・いわう	56.2%	・鳥のす	56.2%	・したしい	72.8%	・おいてある	73.5%
・よぼうする	73.8%	・びょういん	73.8%	・そうだんする	59.1%	・指示	93.7%
愛知 79.2%		愛知 78.6%		愛知 78.0%		愛知 77.3%	
全国 81.1%		全国 82.6%		全国 80.7%		全国 79.4%	
差 -1.9ポイント		差 -4.0ポイント		差 -2.7ポイント		差 -2.1ポイント	

今年度は、昨年度までのように一問一答式ではなく、「委員会活動のおしらせ」という通知文の中で、出題されています。これまで以上に、文脈に合わせて、漢字を正しく書けるようにするという意識が求められていると考えます。

◇ 日常で活用する力をつけられる漢字学習の取組を工夫しましょう。【継続】

<ポイント①>

「考えて覚える」漢字練習を行おう（全学年）

・機械的に繰り返し書くだけの練習では、定着しづらく、漢字に対して苦手意識をもつ子供たちも少なくありません。楽しみながら漢字にふれる場を設定し、子供たちが主体的に漢字学習に取り組むような指導に努めましょう。

段階的な漢字指導

低学年・・・漢字の字形と具体的な事物（実物や絵）とを結び付け、漢字に対する興味や関心を高めましょう。

中学年・・・漢字のへん、つくりなどの構成を教え、漢字のもつ意味を考えながら使うように指導しましょう。

高学年・・・漢字のもつ意味を正しく理解させ、**同訓異字や同音異義語に注意**して使うように指導しましょう。

<ポイント②>

様々な場面で、既習漢字を積極的に使う意識をもたせよう

（全学年）

・授業だけでなく、作文、日記、連絡帳等、様々な書く活動において、既習漢字を積極的に使うよう指導しましょう。子供同士で書いたものを読み合い、正しく使用しているかどうか評価する活動を取り入れたり、教師が朱書きを入れたりなど、意識化を図ることが大切です。そして、日常生活で活用できたことに対して、認めたり価値付けをしたりすることで、子供たちに自信をもたせ、読み書きの確かな定着へつなげていきましょう。

<ポイント③>

言語環境を整え、語彙を広げよう（中・高学年）

・辞書を引く習慣を身に付ける。

国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べたり、類語辞典などを用いて語句の適切な使い方を調べたりする学習を習慣づけ、語彙を広げながら正しく適切に漢字を標記できるように指導しましょう。

・索引の使い方や辞典の特色等についての理解を深めさせましょう。

・調べ学習や日常生活の中でも積極的に辞典を利用できるように言語環境を整えましょう。

取組例①

同音異義語カードづくり（高学年）

1 「計る」「量る」「測る」などの同音異義語の例を示し、その他の同音異義語を教科書などから探す

- 既習の漢字の中から同じ読み方をする漢字を探し、整理する。



2 探した同音異義語の意味や使い方を整理して、次のようなカードにまとめる

カードの表（意味や使い方・解答）

【収める】

「きちんと中に入れる。よい結果をあげる。」

（勝利を収める）

【治める】

「政治を行う。」（領地を治める）

【納める】

「お金や物を、受けとる人にわたす。きちんと入れてしまう。」（税金を納める）

カードの裏（問題）

「おさめる」

【治める】 【納める】 【収める】

○正しい漢字を選んで書きましょう。

運動会で勝利をおさめる。

との様が領地をおさめる。

国民は税金をおさめる。

【器官】

「生物の体の中でいろいろな働きを分担している部分。」（消化器官）

【期間】

「ある決まったときから、別の決まったときまでの間。」（期間を延長する）

【機関】

「ある仕事をするためにつくられたしくみ。」（交通機関）

「きかん」

【機関】 【器官】 【期間】

○正しい漢字を選んで書きましょう。

体の中には消化きかんがある。

読書週間のきかんを延長する。

大雨で交通きかんが混乱した。

3 作成したカードをもとに、グループで裏面の問題を出し合い、同音異義語の使い分けについて考える

〈指導する際の留意点〉

- 作成したカードを掲示したり、まとめてとじておいたりするなど、必要なときには、いつでも使えるような言語環境をつくる。

（平成 29 年度全国学力学習状況調査 報告書より）

取組例②

ひらがな「お知らせ」を直そう！（低・中学年）

平仮名で書かれた「お知らせ」

4ねんせいのみなさんへ

ほうそうい
いんかいかつどうのたいけんのおしらせ

1 にちじ 2がつ19にち(げつ)～2がつ22にち(も)
10じ25ふんから10じ45ふんまで

2 しゅうごうばしょ
たもくてきルーム

3 きんがたいしょう
4ねんせいのきぼうしょ

4 もうしこみきげんともうしこみほうほう
・ 2がつ14にち(すい)までにもうしこんでくだ
さい。
・ じむしつまえにもうしこみようしとはこがおい
てあります。ようしにガラスとなまえをかいて
はここにのべてください。

5 おねがい
・ どうじつは、ぜんいんがたいけんできる
ほうそういんのだにしたらがってくださ

第6学年児童が書き直した「お知らせ」

6年生のみなさんへ

放送委員会

委員会活動の体験のお知らせ

日時 2月19日(月)～2月22日(木)
10時25分から10時45分まで

2 集合場所
多目的ルーム

3 参加対象
4年生の希望者

4 申し込み期日と申し込み方法
・ 2月14日(水)までに申し込みてください。
・ 事務室前に申し込み用紙と箱が置いてあります。
用紙にクラスと名前を書いて、箱に入れてくださ

当日は、全員が体験できるように、放送委員の
前にしれがってください。

必要に応じて国語辞
典や漢字辞典を引く
活動を取り入れると
より効果的となる。

新出漢字を使うこと、相手によ
ってどこまで漢字を使うか等
考えさせられるとより効果的。

(平成29年度全国学力学習状況調査 報告書より)

取組例③

変換ミス直そう！＜同音異義語編＞(高学年)

変換ミスを直そう！（例）

○ 間違っている部分に線を引き、正しい漢字に直した文を書きましょう。

- ① 夜が開けたので、窓を空ける。 → 夜が明けたので、窓を開ける。
- ② お皿に映したケーキを、写真に移す。 → お皿に移したケーキを写真に写す。
- ③ 細菌は体調が悪く、実家に寄生虫だ。 → 最近体調が悪く、実家に帰省中だ。
- ④ 自動会役員2名が、歯科医を担当する。 → 児童会役員2名が、司会を担当する。
- ⑤ 大将を受賞した二作品は大正的な内容だ。

→ 大賞を受賞した二作品は対照的な内容だ。

正答を文で書かせることにより、対象
や意味によってどう使い分ければよ
いか意識させることができる。

漢字の意味や成り立ちなどについて
より理解を深められるよう、グループ
活動などを設定するとよい。

(参考) 日本漢字能力検定協会HP

授業アドバイスシート

【小学校国語②】

◆目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く活動を設定しましょう。

実態

- 国語Bの設問2三「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く」の平均正答率が30.0%と低く、全国と比較して-3.0ポイントと差が大きいという実態があります。

対策

- ① 必要な事柄を整理し、簡単に書く活動を設定しましょう。
- ② 新聞やリーフレットなど文章の種類や特徴を踏まえ、内容や文章の量などを考えさせる学習活動を工夫しましょう。

設問では水やりが大変な理由を【アドバイス】から一つのみ取り上げており、【アドバイス】の文章全体の構成を捉えて、事実と感想、意見などを区別し、大変な理由を二つ適切に取り上げることができなかつた解答が多く見られました。

必要な事柄や情報を整理するという活動、またそれらを表現するという活動を取り入れた取組をしましょう。

<ポイント>

- 取材した事柄を整理し、情報と情報との共通点や相違点に着目してまとめたり、見出しを付けたりして、理由を取り上げて簡単に書くことができるように指導しましょう。
- 目的と意図に応じて、簡単に書く場合と、詳しく書く場合とを適切に判断することができるようにしましょう。
- 新聞やリーフレットなど文章の種類や特徴を踏まえ、内容や文量などを考えながら書くというような学習活動を工夫しましょう。

◆目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く活動を設定しましょう。

取組例 係活動の協力をお願いするポスターをつくろう(2/2、全2時間)

(高学年)

学習活動1 本時のめあてを確認する

- 本時では、書く事柄を整理して必要な事柄を選び、文章を組み立てて簡潔に書くことを確認する。

学習活動2 本問を活用し、書く事柄の整理の仕方と、簡単に書くことについて話し合う

中学生からもらったアドバイスの中から、ポスターに書くことを見つけて整理しよう。必要な事柄は何か。

アドバイスには、「水やりが大変だったこと」、「大変だった理由」、「理由を説明する事例」が書かれているね。

水やりの協力をお願いするためのポスターだから、水やりが大変な理由を伝える必要があるね。だから今回は「大変だった理由」を取り上げて、簡単に書こう。

水やりに協力してくれる人、大募集!
～緑のカーテンですすしい夏を～

水やりは、毎朝、たくさんの植木ばちにやらなければならぬので、大変です。みなさん! ぜひ、協力してください!!

理由	事例
毎朝水をやらなければならないとすぐわかる	昼休みにしおれかけていた
たくさん植木ばちの水をやる必要がある	植木ばちの数は緑のカーテンの大きさと決まる

めあて
係活動の協力をお願いするポスターを作ろう
ポスターでお願いの内容を分かりやすく伝えるために、必要なことを選んでかんとんに書こう。

去年、わたしたちも緑のカーテンを作ったよ。おかげですすしい夏が過ごせたんだ。でも、水やりがとても大変だったなあ。

まず、毎朝水をやらなければならないとすぐわかるので、毎朝水をやらなければならないことをあつたよ。

それから、たくさんの植木ばちの水をやる必要があるんだ。植木ばちの数はどのくらいたくさん緑のカーテンを作るかで変わってくるよ。

水やりは大変だったけれど、すずしい夏が過ぎて、みんなも喜んでくれて本当にうれしかったなあ。

何かこぼったことがあったらいつでも相談のよ。がんばって作ってね。

目的や意図を明確にし、具体的な事例を挙げて理由を示すというような焦点を絞った交流活動を行う。

整理した内容を、ポスターに書くための短い文や文章にしてノートに書き、確かめてみるようにすることが大切です。



学習活動3 係活動のグループで、文や文章を書き、ポスターにする

- 自分たちの係活動で、協力を依頼する理由を明確にして文や文章を書き、ポスターを作成する。

平成29年度授業アイデア例(国立教育政策研究所教育課程研究センター)

- ポスターが完成した後に、学級全体で互いのポスターを見ながら、工夫したところなどについて交流すると効果的だと考えます。
- 国語科のみならず、各教科等においても、意図的、計画的に書く場面を設定しましょう。